

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)	◎	一般小売店〔土産〕（経営者）	・向こう2～3か月で新型コロナウイルスのワクチンが実用化されることを期待している。そうなれば景気は良くなる。日本製のワクチンが生まれるかどうかは、現在の日本の教育環境が問われているといえる。
	○	スーパー（役員）	・11月に入り、北海道全域で新型コロナウイルスの感染者が増加しているため、自己を守るための行動から巣籠り需要が再び増加することが見込まれ、今後もスーパーマーケット業態の売上は良い数値を維持することになる。
	○	スーパー（役員）	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、外食の機会が減っている一方で、内食需要が増加している。この傾向は当分続くと思われるため、スーパー業態の景気はやや良くなる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・3月が決算時期に当たるため、2～3か月後は決算の一手手前となることから、今よりは状況が良くなる。ただし、新型コロナウイルスがこれ以上拡大すると来客数に影響することになるため、新型コロナウイルスの感染状況次第の面がある。
	○	観光型ホテル（スタッフ）	・札幌市がGo To Travelキャンペーンの適用対象外となる宿泊期間が12月15日を期限としており、それ以降の予約が回復傾向にあることから、今後の景気はやや良くなる。ただし、予約内容をみると、北海道内からの需要で週末の問合せが中心となっている。
	○	旅行代理店（従業員）	・北海道における新型コロナウイルスの感染拡大傾向がこれからのように推移するかで、冬期間の観光動向が左右されるとみられるが、当地においては感染症対策をアピールすることで、2月の流水観光を中心とした冬季観光に多くの人を訪れることを期待している。
	□	商店街（代表者）	・当地3大祭りの1つである冬のイベントの実施も危ぶまれるなか、これまでの状況を踏まえると、特に宿泊、交通、観光関連、飲食などの景気が好転することは期待できない。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大が今回の外出自粛要請などで一旦収まったとしても、旅行や人の動きについては、メンタル的な面で今後も自粛を続ける人が増えるとみられることから、年末から年始に掛けての感染者の増減にかかわらず、客の動きが鈍くなることを懸念している。今の状況は観光業にとって厳しいと言わざるを得ない。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	・新型コロナウイルスの状況によって売上が左右されるため、今後についてはどうなるか分からない。自助努力ではどうすることもできない状況にある。
	□	百貨店（売場主任）	・北海道知事による札幌市の外出自粛要請期間が、当初の11月27日までから12月11日までに延長されたこともあり、現状からの回復が見込めない状況にある。
	□	百貨店（営業販促担当）	・インフルエンザへの対策も含めて、来年の春先まで、客は外出に慎重になるとみられる。そのため、特に婦人服、スーツ関係は需要が落ち込むことになる。
	□	乗用車販売店（経営者）	・全車種併売という商品力強化の追い風もあり、11月の新車受注は前年実績を上回る水準で推移している。このため、当面は新車販売の好調な状況が続くことが期待できる。
	□	乗用車販売店（従業員）	・景気が若干回復しつつあったものの、新型コロナウイルスの感染状況が悪化してきていることから、客の来店が減ってきている。今後の販売動向にも影響が出てくることを懸念している。
	□	旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染拡大によって多分な影響が生じている。ワクチンや治療薬が実用化されない限り、先行きの景況感は流動的なまま推移する。
	□	旅行代理店（従業員）	・景気の先行きについて、今年に関しては新型コロナウイルスの感染状況による部分が大きいため、正直判断できない。業種的にも影響を直接受けるため、収束を願うのみである。ただ、感染拡大が収束したとしても、すぐに需要が完全回復するわけではないため、今年度は史上最悪の業績となる。
□	旅行代理店（従業員）	・今のところ、Go To Travelキャンペーンは来年1月で終了する予定であるため、延長されない限り、2～3か月先も数えることができる程度の申込みにとどまるとみられる。そのため、今後の景気は現在と変わらない。	

□	旅行代理店（従業員）	・今後2～3か月で景気は好転しない。年末年始後で買い控えのある時期でもあり、医療崩壊の心配が大きい状況からは致し方ない面がある。
□	通信会社（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大が収まれば積極的な販売拡大を再開できるが、見通しが立たないため、しばらくは耐え忍ぶことになる。
□	美容室（経営者）	・ここ3か月間、売上などに変化が余りみられない。年末年始に掛けて少しは良くなることを期待していたが、今の状況からはそれも期待できない。ただ、景気が悪くなるような様子もないため、今後の景気は変わらない。
□	住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況がどうなっているのか分からないため、先行きの見通しが全く立たない状況にある。
▲	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスに対する客の気持ちが一旦緩んでしまった後であるため、現在の状況を立て直すには多大な力が必要になる。そのため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスのワクチンが実用化されることを期待したいが、安心できる状況ではないため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	百貨店（販売促進担当）	・冬場は当面、現在の状況が続くとみられるため、景気が回復傾向となるのは春以降になる。
▲	スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの影響による景気悪化を肌で感じるようになってきたことから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	スーパー（店長）	・Go To Travelキャンペーンにおける札幌市の対象除外、Go To Eatキャンペーンにおけるプレミアム付食事券の販売一時停止など、景気減退につながるような動きが出ていることから、年間最大の商戦となる年末年始について、前年並みの実績を期待することができない。店舗の近隣でも新型コロナウイルスの感染確認による学級閉鎖などが続いており、客が外出を控えている傾向が顕著にみられることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	スーパー（企画担当）	・北海道、札幌の新型コロナウイルスの感染拡大に伴う、Go To Travelキャンペーンの対象除外、制限措置などによって、心理的な面で消費が落ち込むことになり、年末年始商戦にマイナスの影響を与えることが懸念される。
▲	コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの影響により年明け以降、倒産、失業が増加することが懸念される。そのため、消費者の節約志向がますます強まることになる。食品は必需品であるため、より価格の安い店舗に客が流れることになる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・今後、地方にも新型コロナウイルスの影響が及んできそうなことから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	家電量販店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第の面があるため、今後の景気については流動的である。
▲	家電量販店（店員）	・今後、不要不急の外出自粛を要請されることや緊急事態宣言が出されることを懸念している。そうなると客足が鈍ってしまうため、景気はやや悪くなる。
▲	乗用車販売店（経営者）	・地元の大きな工場の撤退が発表され、地元経済に多岐にわたって大きな影響を及ぼすことが見込まれる。他地域とは別の事情ではあるが、景気の悪化は避けられない。
▲	乗用車販売店（従業員）	・冬場に向かって市場が縮小する傾向があるため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルスの影響が落ち着くまで、客が外出する回数も減ることになるため、景気は悪いままで推移する。冬のボーナスが削減されている業界の話も聞くことから、客の購買意欲にも影響が出てくることが懸念される。
▲	自動車備品販売店（店長）	・新型コロナウイルスが終息しない限り、カー用品店へ行こうとする客が増加することはない。現在のところ、必要品のみ購入が大半であり、不急の商材などの相談で来店する客が少ないため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	その他専門店 [医薬品]（経営者）	・雇用を含めて、景気が上向くことを見込めない限り、今後の景気は徐々に悪くなる。
▲	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大が収束するまで、景気は厳しいまま推移する。
▲	その他専門店 [造花]（店長）	・新型コロナウイルスの第3波の影響で、今後の景気は低迷することになる。

▲	高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスの感染者の急増、飲食店への営業自粛要請、Go To Travelキャンペーンの対象除外などの影響が大きく、今後しばらくは景気がやや悪くなる。地方のイベントなども、開催を不安視する主催者から中止の連絡が入っており、外販も減ってきている。
▲	高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスの感染拡大により、札幌市がGo To Travelキャンペーンの対象から除外されたことなどから、北海道を訪れる観光客が再び減少するとみられるため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	観光名所（従業員）	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、11月21日からの3連休を終えてからGo To Travelキャンペーン利用客の客足が激減した。現在の感染拡大傾向が収まるまで、しばらく時間が掛かるとみられることから、今後については忍耐の冬となることが懸念される。
▲	美容室（経営者）	・最近、近くの学校や施設でクラスターが発生したこともあり、客の動きが鈍くなってきている。特にシルバー世代の動きが悪くなっていることから、今後、売上が減少することを懸念している。
▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・来春まで輸送量の減少が続くとみられる。
×	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染拡大が収束に転じるか、ワクチンが実用化されるようになるまで、景気は悪化することになる。
×	商店街（代表者）	・例年オフシーズンに向かう時期であり、今年は新型コロナウイルスの影響も見込まれることから、今後の景気は悪くなる。
×	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染拡大が止まらないことから、当地では休業要請を含めた制限措置が発令された。年間で一番の稼ぎ時である12月にまたがっていることから、再起を期待していた飲食店は途方に暮れている。現状では12月中旬から年末に掛けての忘年会の予約もキャンセルばかりで、全くといっていいほど予約が入っていない。来年1月もキャンセルが続出しており、現状では新年会も壊滅的である。12月に最低ラインの売上を作れないと、年を越せない店舗が続出しそうな状況である。こうした状況は飲食店に限らず、クリスマス商戦を控えている一般店も同様の心配をしている。正月明けの状況がとても怖い。
×	百貨店（役員）	・新型コロナウイルスの第3波の影響が一層大きくなるとみられるため、今後の景気は悪くなる。
×	スーパー（店長）	・悪化傾向が続いているため、今後の景気は悪くなる。
×	スーパー（従業員）	・今後については、消費低迷と価格競争の激化による収益悪化が見込まれる。
×	コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの特効薬などが開発されない限り、観光業などの景気回復は見込めない。
×	コンビニ（エリア担当）	・周辺でリストラや転籍などが行われている事例がみられることから、今後、失業者が増えることが見込まれるため、景気は悪くなる。
×	衣料品専門店（店長）	・当業界は国の景気対策とは無縁なことから、今後、一気に崩れていくことが懸念される。
×	高級レストラン（経営者）	・例年であれば12月は書き入れ時であるが、新型コロナウイルスの感染拡大により、人が出歩く機会も減ることになるため、それも見込めない。これまで景気は少し上向いてきていたが、今後についてはますます悪くなる。
×	高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスの終息がみえず、先行き不安がまん延していることから、今後の景気は悪くなる。
×	スナック（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くまで、景気が上向くことは無理だとみている。今年は忘年会も期待できないため、12月中に閉める店もかなり多くなるのではないかと懸念している。
×	観光型ホテル（経営者）	・現状、Go To Travelキャンペーンの対象から札幌を除外する措置が採られているが、北海道観光のエンジンである札幌が止まることで、既に全道レベルで宿泊予約のキャンセルが発生するなど、甚大な影響が生じている。これは地元の宿泊施設だけの問題ではなく、経済波及効果がなくなる地域経済への影響も大きく、地方経済崩壊の危機といえる。

	×	タクシー運転手	・これから年末の繁忙期を迎え、例年であればタクシーの利用が1年で最も多い時期となるが、今年は新型コロナウイルスの影響で忘年会がほとんど行われず、昼夜の人出も激減していることから、大幅な減収となりそうだ。今後の景気はますます厳しくなる。
	×	タクシー運転手	・師走を目前にしての新型コロナウイルスの感染急拡大によって、今年の忘年会シーズンの人出は壊滅的な状況に陥る。年間で一番の売上を確保できる時期だからこそ、過大な影響が生じることになり、今後の景気は悪くなる。
	×	タクシー運転手	・Go To Travelキャンペーンの対象から札幌市が除外されたことで、観光関係もイベント関係も予約すら入っていないひどい状況となっている。中心部での人の動きが当てにならない状況であることから、今後の景気は悪くなる。
	×	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染状況次第だが、冬季を迎えて感染拡大が懸念される時期であることから、売上を堅持することは期待できない。
	×	タクシー運転手	・今の状況を見る限り、とても厳しい状況にある。景気が回復するまで、2～3か月、あるいはそれ以上の時間が掛かる。北海道全体における新型コロナウイルスの感染状況も拡大しつつあり、地元でも感染者が増えつつあることから、当業界の売上が伸びることは期待できず、厳しい状況に陥ることになる。
	×	タクシー運転手	・全国的に新型コロナウイルスの感染者が増えていることから、本来であれば1年で最も稼働の上向く年末年始の人の動きを期待できない。このままでは今後の事業継続を考えなければいけない状況にもなりえる。ワクチンのいち早い実用化が望まれる。
	×	観光名所（職員）	・Go To Travelキャンペーンの効果により、10月は国内旅行者を中心にやや回復傾向にあったが、インバウンド分が抜け落ちているため、全体的には厳しい状況が続いている。また、既に新型コロナウイルスの感染拡大がみられることから、本格的な冬を迎えて、今後の感染状況がどのようになるのが心配である。
	×	美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの影響により景気は悪くなっている。今後は新型コロナウイルス関連での倒産が増えることも懸念される。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	通信業（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染防止策としてリモート需要が盛り上がっていることに加えて、世界的にワクチン開発が予想以上に進展していることから、今後の景況感には改善傾向となる。
	□	食料品製造業（従業員）	・景気回復に寄与するとみられるような案件が特に見当たらないため、今後も景気は変わらない。
	□	建設業（経営者）	・今後については、厳冬季に入ることから、工事の稼働率が低くなる。新規の受注も民間工事はまだ動かない。公共工事については3次補正予算やゼロ国債による公募が一部始まるとみられるが、まだ契約のみの段階となるため、実態的な動きは発生せず、マインド面での効果が僅かに生じる程度とみられる。
	□	建設業（役員）	・新型コロナウイルスの第3波到来により、経済活動の本格回復がますます遠のくことになる。次年度以降の受注見通しが立たない状況に変わりはない。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・社会インフラの再整備、災害対策建設投資などへのニーズが旺盛に推移していることから、今後も景気は変わらない。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・現状維持が続くとみられるが、新型コロナウイルスの感染状況によっては、経済活動への影響が大きくなるのが懸念されるため、今後の景況感については安心しきれない面がある。
	▲	家具製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの終息がまだみえないことから、今後は家具市場も全体的な景況感の影響を受けることが懸念される。現在の好調な状況が長続きするとは考えにくい。
	▲	出版・印刷・同関連産業（従業員）	・新型コロナウイルスの影響が大きいため、今後の景気はやや悪くなる。

	▲	金属製品製造業（従業員）	・北海道において新型コロナウイルスの感染者が増加していることから、今後、その影響が現れることになる。様々な業種の企業で業績が悪化するとみられることから、今は不安しかない。
	▲	建設業（従業員）	・年度初めに新型コロナウイルスの影響で建設投資を1年先送りした企業が多くみられたが、一向に終息しない現状を受けて、更に先送りする事例が増えている。
	▲	輸送業（支店長）	・11月以降、新型コロナウイルスの感染拡大が続いていることから、今後、その影響で景気がやや悪くなる。
	▲	司法書士	・北海道の地方都市の地域性を考慮すると、例年1～3月は不動産取引や建物新築は低い水準で推移することになるが、今年は新型コロナウイルスの影響も加わるため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	司法書士	・当地においては、Go To Travelキャンペーンの対象地域からの除外、Go To Eatキャンペーンにおけるプレミアム付食事券の販売一時停止、飲食店への時短営業要請などによる影響が大きく、既に忘年会の中止が相次ぐなどの影響が出ている。また、不要不急の外出の自粛要請などもあり、景気回復には程遠い状況にある。
	▲	コピーサービス業（従業員）	・今後の景気は、少しずつではあるが、中長期的に緩やかに悪くなっていく。
	▲	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・Go To Travelキャンペーンの効果が出始めた矢先に、新型コロナウイルスの第3波の影響で札幌市を対象にGo To Travelキャンペーンからの除外、飲食店の時短要請、接待を伴う飲食店への休業要請などが相次いだことで、景気回復に水を差す形となっている。また、民間設備投資の消極化、公共工事の財源確保などの不安材料も尽きないことから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・新型コロナウイルスの感染拡大により、回復傾向にあった観光業界やその他の業種にも影響が及ぶことが懸念されるため、今後の景気はやや悪くなる。
	×	金融業（従業員）	・新型コロナウイルスの感染再拡大により、札幌市がGo To Travelキャンペーンの対象から除外されることとなり、道内景気の下支え役を喪失することとなった。消費行動や消費マインドへの悪影響も懸念されることから、道内景気は3か月前と比べて悪くすると見込まれる。
	×	広告代理店（従業員）	・コロナ禍の影響が続くなか、北海道の新型コロナウイルス感染者が急増していることで、景気が上向くような要素が全て消えてしまったことから、今後の景気は悪くなる。
	×	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・先行きについて、これまでの不透明な状況から、明らかに暗いというイメージに変わってきていることから、今後の景気は悪くなる。
雇用 関連 (北海道)	◎	—	—
	○	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で経済活動が停滞していることから、当地における新規求人数は前年比マイナス18.0%、月間有効求人数は前年比マイナス19.8%となっており、いずれも下降しているが、今後、経済活動が回復することで徐々に復調することになる。ただし、需要が低迷する一部の業種においては、不安定な状態が継続していることから、当面は現在の水準を上回る回復までは見込めない。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・繁華街の落ち込みが顕著だが、地域の基幹産業である農業生産額が例年並みとなっていることから、全体的な景況感は今後も変わらないまま推移する。
	□	職業安定所（職員）	・有効求人数が前年を上回っていることに加えて、新型コロナウイルスの影響を受けている宿泊業、飲食業などに持ち直しの傾向がみられる。しかしながら、今後、感染拡大の影響が見込まれることから、景気は変わらないまま推移する。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・新型コロナウイルスについて、今後も第4～5波が到来することが十分に考えられるため、企業側が新卒採用に見切りをつけることが懸念される。一方、活動量が激減している学生側も、卒業までどこかで就職が決まれば十分といった雰囲気が見られる。これらのことから、今後については最悪の状況がしばらく続くことになる。

▲	人材派遣会社（社員）	・冬を迎えて、土木建設業の動きが止まることになる。百貨店、観光業界は、新型コロナウイルスの影響により、最大の稼ぎ時である年末年始の売上が見通せず、先行きに不安を抱える。冬は消費者の動きも散漫となるため、今後の景気の底上げは見込めない。
▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・当地で新型コロナウイルスのクラスターが発生したことから、クリスマス、忘年会、帰省、初売りといった年末年始ならではのイベントについて、軒並み自粛、縮小せざるを得ない状況となっている。また、大手スーパーが来年春に撤退することも発表されている。今後については、新型コロナウイルスの感染状況次第ではあるが、今は厳しさしか感じない状況にある。
▲	職業安定所（職員）	・最近になり、新型コロナウイルス感染者の増加が顕著になってきていることから、今後数か月はその影響を受けることになる。特に観光産業や飲食店、それに付随する関連産業では、一定の制約を受けながら企業活動を行うことになるため、今後の景気はやや悪くなる。
×	求人情報誌製作会社（編集者）	・新型コロナウイルスの影響で、当面の間、観光業を中心に道内景気は冷え込むとみられる。景気が上向きような要素が見当たらない。
×	求人情報誌製作会社（編集者）	・ウイルスに感染しやすい季節ということもあり、ワクチンや治療薬が普及しない限り、新型コロナウイルスの感染者が減ることはないと思われる。経済活動が上向きような兆しもないため、今後の景気は悪くなる。